

広域的な大災害となつた東日本大震災が発生し、被災地の行政や地域の建設業者は、どんな状況に直面し、どう対応したのか。『東日本大震災』現場からの証言』と題した2011年建設トップランナーフォーラムが7月15日午前9時30分から港区の建築会館ホールで開かれ、今後の復旧の見通しを含め関係者から話を聞く。建設トップランナー倶楽部(代表幹事・和田章東工大名誉教授、米田雅子慶応大特任教授)が主催する。

日本列島全体が地震活動期に入っているとされるいま、建設業や行政の関係者が、巨大地震への対応の在り方や課題について情報共有するのが狙いだ。岩手・宮城・福島の手・宮城・福島の3県

ネットワークによる支援を、実際に活動した建設業者が報告する。さらに、「大震災の復旧計画と地域建設業の役割」をテーマに、三陸沿岸の復旧支援の拠点となっている岩手

全国青年会議所建設部会が共催。プログラムを建設トップランナー倶楽部のホームページに掲載している。参加費は無料(資料代1000円)。参加希望者はホームページあるいはFAXで申し込む。

東日本大震災現場からの証言

7月15日に開催

主催者の建設トップランナー倶楽部は、建設

の建設業者が現場の課題を話し、必要な対策を提言する。一方、東北地方整備局と3県の県庁の幹部職員が被災の状況や課題、復旧計画などを説明する。また、地域の建設業のネットワーク。

県遠野市の本田敏秋市長をはじめ、大石和国士技術研究センター理事長や濱田政則早大教授ら学識経験者、建設業者らがパネルディスカッションを行う。

設業の複業化や農商工連携など、新しい地域産業を目指す全国の経営者の集まり。建通新聞社など地域の建設専門紙で組織する地方建設記者の会も参加している。

また、地域の建設業のネットワーク。